

法政大学大原社会問題研究所

所 報

(2005.12.1～12.31)

□刊行物

『日本労働運動資料集成』第I巻（1945～1946年）、第III巻（1950～1954年）、第IV巻（1955～1959年）旬報社（以上、第1回配本）

『大原社会問題研究所雑誌』566号（2006年1月）

□図書受入

| | 和 書 | 洋 書 | 計 |
|-----|-----|-----|-----|
| 購 入 | 76 | 13 | 89 |
| 受 贈 | 134 | 2 | 136 |
| 合 計 | 210 | 15 | 225 |

□閲覧サービス

閲覧

開館日数 21日
 閲覧人員 37名
 貸出図書 5827冊

コピーサービス

学外 24件 1310枚
 学内 14件 1287枚

日 誌

- 7日 『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会
 8日 日ロシンポ実行委員会
 10日 加齢過程における福祉研究会
 テーマ：「科学的根拠に基づいたアルツハイマー病の予防をめぐる」
 報告者：須貝佑一氏（浴風会病院診療部長，認知症介護研究・研修東京センター副センター長）
 12日 電動書架工事開始式（キックオフ）
 14日 戦後労働運動研究会
 テーマ：「第1回配本を終えて」
 報告者：早川征一郎
 15日 共同研究プロジェクト「労務供給の多様化」研究会
 テーマ：「製造現場の変容と労働組合の課

題」

講師：小山正樹氏（JAM副書記長）

16日 見学来所：江口享氏（日本労働会館理事長）他3名

17日 国際シンポジウム「日本とロシア—戦争の100年，平和の150年」 10時～17時30分 法政大学市ヶ谷ポアソナードタワー26階スカイホール 報告1：タチヤーナ・フィリモノヴァ氏（ロシアナショナル図書館付属ブレハーノフ文書館長）「ロシアから見えるアジア極東と日ロ戦争」 報告2：ソク・ファジョン氏（韓国・世宗大学人文学部助教授）「日ロ戦争と風刺に見る権力政治の考察」 報告3：梅田俊英氏（法政大学大原社会問題研究所研究員）「日本における日ロ非戦論」 報告4：坂本博氏（法政大学講師）「ロシア思想に現れた日本」 報告5：コンスタンチン・サルキーソフ氏（山梨学院大学教授）「日ロ関係の転機としての日ロ戦争」 コメンテーター：和田春樹氏（東京大学名誉教授），ユ・ヒョジョン氏（和光大学教授）

18日 見学来所：ソク・ファジョン氏

19日 見学来所：タチヤーナ・フィリモノヴァ氏 戦後社会運動史研究会

テーマ：「兵本達吉『日本共産党の戦後秘史』（産経新聞社）批判」

報告者：犬丸義一氏（元長崎総合科学大学教授）

20日 事務会議

21日 運営委員会

議題①次期運営委員について

②兼任研究員の採用について

③研究員総会（日にち，公開講演会，内容等）について

④その他

研究員会議

27日 冬季休業（閉館）（～1月9日）

大原社会問題研究所雑誌 No.569（2006年4月号）

2006年4月25日発行

定価 1,000円（本体952円），年間購読料12,000円

編集（兼）発行人 法政大学大原社会問題研究所 所長 相田利雄

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042（783）2307